

○ 本校の概要

本校は大田区の東部に位置する羽田と東糀谷の2つの地域を校区に抱え、通常学級6学級と特別支援学級2学級の生徒170名が通学している。どちらの地域も町会、自治会のみならず、生徒は地域行事への参加や協力を通して、郷土愛を深く自尊感情を高めている。学校経営の基本方針は「豊かな心と主体性を育む教育の推進」「学力向上・体力向上のための取組の推進」「地域と共に子どもを育てる教育の推進」の三本柱であり、外部の人材を積極的に活用し、基礎学力の向上や体力運動能力の向上に向けての取組を推進している。学習面や生活面の課題も多いが、校区の小学校と連携し、改善に向けての努力をしている。特別支援学級は持久走と和楽器の演奏に力を入れ、生徒を積極的に校外に出すことにより、自信をつけさせている。校長の掲げるスローガン「一人一人が自分の夢を実現させるために日々努力し続けている学校」のもと、教職員、保護者、地域が連携し、生徒の「豊かな心」「あきらめずに努力する姿勢」「他と協調し最善をつくす実践力」を伸ばす取組を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
						評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4: A 80%以上 B 70%以上 C 70%以上	3	・外国語指導員を活用し、コミュニケーション能力の育成を図った。指導員の持ち味を生かし、外国語によるコミュニケーション楽しさを実感させた。 ・技術科でのプログラミング教育を実施し、創意工夫を生かしながら思考力を高めるものづくりを行った。美術・家庭科での制作活動では丁寧な指導で完成に導いた。 ・ICTの研究を生かし継続しながら、日常的にIVTを用いる実践に取り組んだ。 ・特別な教科道徳においては、ICTを活用しながら、他者との意見交換により深い認識に導くようにした。 ・運動量を確保しながらも、男女混合授業において、運動の楽しさ、技術の向上を図る授業に取り組んだ。 ・保護者アンケートにおいては、「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合は84.6%であり前年度より1.2%低下したが引き続き高い評価を得ている。「道徳授業は生徒が考えを広め、深められるものであった」と回答する保護者は、前年度より13.0%増加し72.3%となっており、高い評価を得ている。 また、「教育目標や指導方針を明確に示している」も6.5%増加し、80%となった。過年度に比べ、学校での実践が保護者には伝わっていると思われる。 ・一方生徒の「どのような生徒を育てたいか知っている」への回答は、7.2%低下し、57.2%であった。生徒へは、学校のビジョンをしっかりと伝えることが必要である。	A	9	・道徳の授業について、肯定的な評価が増えたことは、ICTを用いて対話をする授業が保護者に認知されてきたのでしょうか。対話から、話し合い決断につながるコミュニケーション能力の育成を期待します。 ・これからの社会において英語力の必要性を感じる中で、楽しく指導できたことを評価できる。また技術科等のものづくりを実践できたことも評価できる。 ・ICT機器などを大いに活用し生徒の学習力や個性などを向上させてほしい。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3: A 60%以上 B 50%以上 C 60%以上			B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2: A 40%以上 B 30%以上 C 50%以上			C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	1: A 40%未満 B 30%未満 C 50%未満			D		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: A 80%以上 B 80%以上	3	・教員が生徒一人一人の学習状況をよくつかんでおり、寄り添って指導することで生徒の意欲向上につなげている。 また、特別支援への理解が深まり、生徒の特性に応じた指導も進んでいる。 ・学習カルテによる指導により、自己の学習状況の理解を深めた。 ・また、学習方法の指導を全校で行うことで、より効果的な学習を行うことができた。 ・学習教室は、前年度より回数減らしたが、生徒自身が必要性を感じて参加している。土曜学習教室は、毎回20名以上の参加をえている。 ・授業改善プランは全教員が関わり作成している。全教員がおおむね授業に生かすことができており回答している。 ・NIEを取り入れた指導は、新聞作成による表現力等の育成に大きな成果がある。また、今年度は授業においてスクラップ学習を行った。社会的な関心が高まり、意欲の向上につながった。生徒からは都の最優秀賞を獲得した生徒が出た。 ・「チームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸ばしようにしていた」と回答した保護者の割合は、76.9%であった。また、生徒の回答は83.0%であった。いずれも、「よくわからない」を除くと90%以上であり高い評価を得ていると考える。	A	9	・来年度も一年生には学習方略のていねいな指導をお願いします。 ・表現力だけでなく、情報の選択活用能力を育てる新聞教育は羽田中の教育の特長として、引き続き指導に力を入れてほしい。 ・コロナ禍での学習環境ではICT等の教育が進んでいることが素晴らしい。色々な学習形式が得られ学ぶ意欲や興味が広がりをみせていると感じます。今後のさらなる飛躍に期待します。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: A 60%以上 B 60%以上			B	2	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: A 40%以上 B 40%以上			C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: A 40%未満 B 40%未満			D		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: A 80%以上 B 1%低下	3	・組織的に生活指導に取り組むことができた。ほぼすべての生徒が予鈴で登校し、自然に規律を守る状態となっている。 ・道徳の授業はICTを用いた対話的な授業が日常的に行われるようになった。 ・学校生活調査、QUの結果を用いて、生徒への対応を着実に進めた。不安傾向が強い生徒が多く、不登校やメンタル面で課題の行動の要因となっている。「とまり木」(別室指導)を設けたことで、教員の早期対応の意識があがった。また、具体的な支援を行うことができるようになった。 ・学校での問題行動のケース会議を行う事案が今年度はなかった。個別に、児童委員に見守りをお願いする事例が複数あった。 ・メンタル面での課題を持つ生徒への対応のための個別ケース会議を多く行った。学年・SC・SR・部活動などの連携により、課題が改善した事例が生じた。 ・「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」と肯定的に回答した保護者の割合は、61.5%と3.1%上昇した。「わからない・無回答」を除いた回答の中での肯定的回答の割合非常に高くなった。過年度より、学校での取組が保護者から見える状態となり保護者からは評価されている。しかし、不登校生徒は、未だ7%を超える状況であり、予防的な指導がさらに必要とされる。 ・生徒アンケートでの「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」に肯定的に回答した生徒の割合は、76.1%であり、前年度より6.4%上昇した。学校の取組が見えるようになったと思われる。	A	10	・部活動や行事等の特別活動、学校の様々な活動において、生徒の自己肯定感や自己有用感を感じさせる機会の工夫をお願いします。また専門家等との連携も強化して欲しい。 ・「とまり木」等の学校なていねいな取り組みが広く生徒や保護者に理解評価されている状況になったことも大きなSTEPUPだと思います。引き続きそれぞれに寄り添った対応をお願いします。 ・弁護士によるいじめ防止教室の授業は生徒が考える機会となり有用だったと思う。 ・不登校生徒対応の「とまり木」等の対策により生徒に浸透し活動していることを評価します。また、不登校生徒のいない羽田中に今後期待します。 ・不登校問題に関しては、とまり木をはじめ、学校としての取り組みは、他校よりされていると感じます。いじめについては、具体的にどのようなケースがあり、どのような対応をしたのかかわからないので評価できません。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: A 60%以上 B 0.5%以上 低下			B	1	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: A 40%以上 B 昨年度と同程度			C		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: A 40%未満 B 0.5%以上 上昇			D		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: A 90%以上 B 80%以上	3	・「早寝・早起き・朝ごはん」運動に、学校として取り組んだ。習慣化することを意識して取り組んだ。 ・栄養士による食育の指導や、毎日の給食を通しての食育を生活に行うことができた。 ・コロナ禍において、生活習慣が乱れることを防ぐため、小まめに生徒への指導、保護者への連絡を行った。メンタル面で課題がある生徒の生活習慣の乱れが多生じ、解決を妨げる要因となっている。 ・保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」に肯定的に回答した保護者の割合は86.9%であり、前年度と同様である。また、生徒の「生徒は、元気に登校し、楽しい学校生活を送っている」の回答は、88.7%であり前年度から大きく向上した。体育祭・文化祭をほぼ例年通り行ったことが栄養士による。また、「健康な生活を送るための指導をしている」に肯定的に回答した生徒の割合は88.7%で5.8%向上した。 ・給食への肯定的評価は生徒95.0%、保護者90.6%であり、非常に高い。栄養士を中心とした取り組みが成果をあげているとともに、保護者が学校に肯定的な目で見えるようになったことがうかがえる。	A	9	・食育を進めるにあたっては、保護者から要望のある給食試食会の実施を希望します。残食率が低いことは素晴らしい。 ・食育は大事、栄養士、給食調理員の方々の努力を評価します。 ・保護者の意見では「部活動の際の再登校について、生徒の待機場所の確保」という声がでていますが、私も生徒の負担や安全面を考慮し、空き教室を利用できないものか、また待機場所にて自習学習等ができる環境だと考えます。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3: A 70%以上 B 60%以上			B	2	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2: A 50%以上 B 40%以上			C		
			1: A 50%未満 B 40%未満			D		

プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくれます。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: A 80% 以上 B 90% 以上	3	・授業公開における保護者アンケートにおいて99%が「わかりやすい授業をしていた」という質問に肯定的な回答がされている。 ・支援委員会及び、SR委員会を週1回定期的に行い、不登校・いじめのチーム支援をした。また、その背景である特別支援の指導をすすめることができた。個々の特性に応じた支援がすすみ、SRに入級する生徒が増えた。 ・非常に落ち着いた授業、学校生活が展開されており、生徒アンケートの「授業は規律正しく落ち着いている」は、77.4%となり、昨年度より9.6%、一昨年度より19.6%以上肯定的な回答が増えている。 ・「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」というアンケートに肯定的に回答した生徒は86.3%、保護者は70.8%であり、昨年度より生徒は3.0%、保護者は5.4%上昇している。 ・いじめへの対応も向上しており、安心安全な教育環境がつけられている。	A	9	・学校公開の授業では、先生方がそれぞれ生徒と対話しての授業がされていた。研究が終わった後も、工夫された授業をお願いします。 ・保護者アンケートの結果が昨年度の評価より上がっているということは、先生方の努力の成果が表れたのかと考える。大変評価できる。 ・出前授業に来ていただいた団体の方から学校の雰囲気がとても良く、教室もきれいで、良い学校だなと思ったという言葉ももらいました。先生もしっかりしているとも言っていました。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: A 60% 以上 B 70% 以上			B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: A 40% 以上 B 50% 以上			C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1: A 40% 未満 B 50% 未満			D		
		授業規律と教室内外の環境整備を徹底し、誰もが落ち着いて学習に取り組める環境づくりを進める。						
プラン6 学校・家庭・地域も・家庭・地域が一体となって	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: A 90% 以上 B 70% 以上 C 80% 以上	3	・ホームページは、ICTサポーターや経営支援部を活用し、学期に2～3回更新することができた。 ・地域連絡協議会は、来賓を招かない行事においても、学校をみていただく取組をした。学校として胸襟を開き、情報を提供している。 ・学校支援地域本部とは密接な連携がとれている。学習指導、マナー教室、特別支援級への書写指導など多くの事業を継続実施できた。また、今年度は、教員研修を学校地域支援本部を仲介して、法務省(鑑別所)の心理技官におこなってもらった。 ・体育祭、文化祭、学校公開などできる限り、保護者が参観できるようにした。 ・ボランティア自体の機会は、今年度1回のみであった。次年度は、ボランティアが復活する可能性が高いため、意義・必要性などを次年度以降、再度指導していく必要がある。	A	8	・PTAパトロール活動への教員の参加は、工夫して継続してほしい。 学校・家庭・地域の連携する仕組みについて、教育委員会からの地域への情報発信を早く望みます。 ・学校だよりは、地域が学校を理解するのに有用なものとなっている。 ・コロナ禍、地域の活動を縮小され、ボランティア活動など少なかったと思う。社会情勢が落ち着けば活動も活発になると思う。地域とのコミュニケーションも復活してくると思われる。今後の活躍に期待します。 ・家庭学習が成果を上げていて良かったと思う。ボランティアはぜひ学校から声をかけて機会を増やして欲しい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: A 70% 以上 B 50% 以上 C 70% 以上			B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: A 50% 以上 B 50% 以上 C 60% 以上			C		
		小中一貫「生活指導スタンダード」「学習指導スタンダード」を保護者に周知し、校区の小中学校と連携・一貫した指導を行う。	1: A 50% 未満 B 50% 未満 C 60% 未満			D		
		保護者と共に生徒を見守り、生徒が安心・安全に生活できるようPTAのパトロール活動に学校として協力する。						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。